



農大二中進路通信

令和6年10月15日(火)
第10号 農二進路指導部

学びの秋始まる

秋も深まり、学びの季節が本格化しています。先日、2学期の中間テストが終わり、ほっとしている人も多いとは思いますが、2か月も立たないうちに期末テストは来てしまいます。今回のテストの反省を生かして、次のテストに向けて頑張してほしいと思います。テストの前日に多くの生徒が自習室の前で、数学の問題をどうしたら解けるだろうかと頭を悩ませていました。勉強する意欲自体はとて素晴らしいのですが、さすがにこのタイミングではないんじゃないと思いました。英語、数学、国語はテスト前は確認程度にしておかなければいけませんね。英語、数学、国語は普段から学習を進めて、いろいろ悩んだり、悪戦苦闘するのはその日、その日の学習の後にすべきかと。質問するのも日ごろからして、わからないところを解消しておきましょう。結構、授業では理解しているつもりでも、家庭学習をしていないと忘れてしまいます。こまめな復習が力を発揮しますので普段からの積み重ねが大切です。今回のようにテスト前に国語、数学、英語に莫大な時間を費やすのではなく、一週間前くらいからは最後の詰めをすることで大きく点数が伸びる理科、社会などの科目の勉強時間に当ててほしいと思います。この辺の学習計画、学習スタイルの改善は必要かと思われますね。

さらに、テストが返ってきた後の見直し、解き直しが大切です。話を聞いていると「〇〇点だった」とか「平均点より上だ」とか「平均より下だ」といった点数を重視する声が多く聞かれました。もちろん、点数は大切ですが、仮に平均点が40点くらいだとして、自分の点数が50点だとしたらみなさんは満足ですか？周りと比べて良かったとしても、全員でできなくなっているかもしれません。そうしたら、全国では戦えません。テストの半分の点数を落としていることが問題だということに気づき、習得ベースの学習をしてほしいと思います。

ここで確認したいのが中高一貫校の学びの意味です。中高一貫校では、高校受験がない分、より深い学びや自分の興味を追求する時間が確保されているのが特徴です。しかしその分、基礎力の徹底が重要になります。高校課程やさらにその先の大学進学、そして社会で活かす土台となります。そのような学習を高校受験を意識することなく進められるのは大きなメリットです。したがって、基礎学習を徹底し、自分のものにしていきましょう。日々やらないと力はずきませんので、最低2時間から家庭学習時間を！

第6回-Minecraft-カップ地区大会出場決定

北関東信州予選において、本校から参加した農二中ダイナマイトの作品「クリーンエネルギーcity ～全生物に幸せ届け!～」が45作品のうち17作品に選ばれました！当チームは、10月20日(日)14:00～16:00 イオンモール高崎1F セントラルコートで行われる地区大会に参加し、プレゼンテーションを行います。一般の方も観覧可能ですので、応援に行きましょう。

2年 清水 大生、佐藤 和心、落合 寛樹、杉山 心音、清水 圭真、町田 隼人
1年 榎本 幹太、須藤 莉空、中村 恩



川場村稲刈り体験を通じて学んだこと

秋は、各地で稲刈りの季節を迎えます。農大二中では、学習だけでなく、体験を通じて学ぶことが大切です。そんな体験の一つが今回の稲刈りです。5月に田植えに川場村に行ってきましたが、9月25日(水)には自分たちが植えた稲の刈り取りに行ってきました。普段、何気なく食べているご飯が、どれほどの時間と労力をかけて作られているのかを知れたことは、とても貴重な経験です。実際に生徒からは「稲刈りは腰が痛くなり、昔の人たちの苦勞を知ることができました。」「田植えから稲刈りまでたくさんの手間がかかっていたのだと感じた。」「稲を鎌で刈ろうとするとすごい肉体労働になることが知れた。」などの感想がありました。そして、普段何気なく食べているお米への感謝の気持ちが深まったように思えます。また、稲作は、天候や季節、土壌など、自然の力に大きく依存しています。稲刈り体験を通じて、自然との共生を実感し、私たちの生活が自然にどれほど支えられているのかを学ぶことができた生徒も多くいたように思えます。さらに、稲刈りは、体力を使う大変な作業でしたが、その中で収穫の喜びを感じると同時に、仲間と協力して取り組むことの大切さも学べたように思いました。稲刈り体験は、食の大切さ、自然との関わり、そして協力の大切さを学ぶ貴重な機会でした。これからの学びや進路を考える際に、この経験を活かしていきましょう。



中等部体育祭の開催

10月8日(火)は本校体育館で中等部初、単独の体育祭が実施されました。ほぼすべての準備や運営は中等部生徒会、体育祭実行委員により行われましたが、中等部生全員の協力により、とてもスムーズな進行ができました。とても大きな行事で、準備段階ではさまざま大変なことがあったとは思いますが、大成功に終わり、改めて、中等部生の頑張りや感銘を受けました。体育祭は、単なるスポーツイベントではなく、仲間との協力や達成感、そして努力の大切さを学ぶ場です。競技では、個々の力も重要ですが、それ以上にクラス全体が協力し、支え合うことが求められます。そんな中、クラス同士で声をかけ合い、応援し合い、より強い絆が生まれたように思えます。また、体育祭は失敗や悔しさを経験する場でもあります。しかし、それらを乗り越え、次への挑戦に繋げる力も学ぶことができたようにも思えます。その日のClassiには「筋肉痛が・・・」といった書き込みが多く見られましたが、それだけたくさん体を

動かし、頑張ったのでしょね。結果ですが、学年の優秀賞は1年はB組、2年はA組、そして、最優秀クラス賞は1、2年のB組となりました。おめでとうございます。体育祭を通じて得た学びや成長を、これからの学校生活に活かしていきましょう。また、来年もガンバレ～！



Global-Challenge異文化交流行事を通じて

10月10日(木)行われた異文化交流行事では、留学生4名(フィリピン、タンザニア、インドネシアより)と中学2年生がそれぞれの学びを披露し、異なる文化や言語に触れる貴重な時間を過ごしました。生徒たちは自分たちで作り上げた英語劇を披露しましたが、セリフから演技まで全て英語で行い、普段の英語の学習を活かし、創造力とチームワークを発揮しました。劇を通じて、生徒たちは自信を持って英語を使う経験を積み、留学生とのコミュニケーションも積極的に行う姿が見られました。

留学生たちは、自分の母国についてのプレゼンテーションを行い、文化や歴史、日常生活について英語で紹介してくれました。彼らが自分の国に誇りを持って話す姿は、聞く側にとっても新鮮であり、他国の文化への理解が深まる素晴らしい機会となりました。また、彼らが日本で学ぶにあたって、サポートしてくれている家族や国に感謝しつつ、学びを自国で活かすという使命感を持って勉強していることを話してくれました。教育を受けられることは当たり前

ではありません。私たちも高い学費を払ってくれている親御さんに感謝をしつつ、目の前の勉強に一生懸命取り組まなければいけませんね。生徒の中には留学生の話す英語の発音やアクセントが普段聞きなれたものとは異なり、理解が難しかったという生徒もいました。今や英語は World Language となり、世界の人々が話す共通言語となりました。共通テストでも欧米人が話す英語だけでなく、アジア人が話す英語もリスニングの中で流されるようになりました。だからこそ、日本人も発音やアクセント、正確さだけにとらわれず、自分たちらしく、恐れずにどんどん英語を使っていく必要がありますね。

また、文化を知る上で背景知識はとても大切になりますが、その知識がない場合、簡単には伝わりませんし、理解ができません。普段のコミュニケーションの中で相手が日本の文化や単語について少しわかっていてくれるため、相手には伝わりますが、そうでなければコミュニケーションは困難です。そんなことに気づけたことが大きな収穫だったかと。この異文化交流は、ただの学びの場にとどまらず、多様な価値観や言語を尊重する大切さを実感できる時間となりました。また、来月にも English Camp があります。ここでも留学生と東京観光をすることになりますので、恐れずに英語を使い、コミュニケーションをとってくださいね。



今後の予定

10月17日(木)	中1 総合探究ワークショップ②農大 志和地先生
10月18日(金)	中2 総合学習ワークショップ③理化学研究所 須藤先生
10月26日(土)	中1、中2 中等部戦争学習(前橋) *希望者
10月30日(水)	中等部 合唱コンクール
11月6日(水)	中1 総合探究ワークショップ③農大 江口先生
11月11日(月)	中2 総合学習ワークショップ④農大 高久先生
11月13日(水)	中1 総合探究フィールドワーク ナバファーム
11月13日(水)~14日(木)	中2 English Camp in Tokyo
11月26日(火)~29日(金)	期末テスト
11月29日(金)	中1、中2 親子進路ガイダンス

